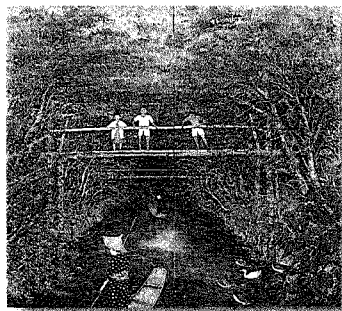




企画展 藤井霞郷展 — 郷土の画家シリーズ その2 —

霞郷は、明治31年(1898)東京芝区高輪東町に、父八十松、母志満の長男として生まれました。本名は徳太郎、母は都留市禾生地区の出身であり、妻は小形山の生まれでした。日本画の巨匠である川合玉堂の門下生として画業に精進し、大正13年(1924)26歳のときに、第5回帝国美術院展覧会に甲州の山村の情趣を描いた「冬の日」が初入選し、画家として認められる機会を得ました。この作品は霞郷にとって都留市とより深く結びつく作品となりました。昭和4年(1929)秋には、久邇宮家新御殿の天井画を描き、賜盃を拝受しています。昭和8年(1933)病氣静養のため小形山に居を構え作画を続けましたが、昭和24年(1949)51歳で亡くなりました。墓は、田野倉中野の法福寺にあります。



1997年都留市ふるさとカレンダー
「ふるさとの彩墨」に
掲載された2作品

上：『十二橋』(8月)

右：『里の秋』(10月)



会期	10月5日(火)～10月24日(日)
開館時間	午前9時～午後4時30分(入館は4時まで)
入館料金	一般 300円(210円)
	高校・大学生 200円(140円)
	小・中学生 100円(70円)
	()内は、20名以上の団体料金



御濠の朝 (昭和16年)

116.6×73.0
絹本着色 軸装



鶉飼 (昭和31年)

60.5×75.0
紙本着色 額装

会期	10月28日(木)～11月28日(日)
開館時間	午前9時～午後4時30分(入館は4時まで)
入館料金	一般 600円(420円)
	高校・大学生 400円(280円)
	小・中学生 200円(140円)
	()内は、20名以上の団体料金

問合先 都留市博物館ミュージアム都留
☎(45)8008・☎(45)8608

秋季特別展『川合玉堂展』

川合玉堂

本名 芳三郎 明治6年(1873)11月24日生まれ

愛知県葉栗郡外割田村(現木曾川町)に父勘七、母かな女の長男として生まれました。

明治20年(1887)京都に出て四条派の幸野楳嶺の門に学び、上京して橋本雅邦について学びました。明治40年(1907)の東京府勸業博覧会に「二日月」を出品して注目を浴びました。文展には創始以来、審査員として登場し、湿润な日本的風土の情感を独特の技法で描きつけ、大正4年(1915)東京美術学校教授に任じ、以後画壇に重要な地位を保持し、昭和15年(1940)文化勲章を受賞しました。

昭和19年(1944)から昭和32年(1957)に亡くなるまでの10余年を青梅市御岳で過ごし、自然を愛し、人を愛した玉堂の人柄は土地の人々からも慕われました。

玉堂画の特色は、写実を超えた自然の気韻を観る者に側々と感じさせるところにあります。ふるさとに抱かれたような安らぎを与える作品は、生涯を通じて玉堂の描きつけたものであり、自然と共につつましく生きる人々の姿があるのが玉堂の画です。そこにこそ、玉堂画の永遠性があると言えるのではないのでしょうか。

代表作は「行く春」「彩雨」「春雪」「月天心」などがあり、技巧の円熟を示しました。

昭和32年(1957)6月30日没。83歳。墓は、東京都府中市の多摩墓地にあります。

昭和36年(1961)5月、玉堂の愛してやまなかった青梅市御岳に『玉堂美術館』が開館されました。